

## 3/24-29 利尻山東北稜→東稜→南稜→北稜

L 高橋岳、板橋輝海

23 日夜、札幌の板橋家で奥さんと娘さんにお見送り頂き、稚内へ。

3/24 晴れ、Co900 からガス (08:20) 鴛泊港(09:40)アフトロマナイ林道(11:30)石崎山 (15:00)Co1300=C1

寒気が入りどっしりとした雲に利尻山は覆われている。間違っアフトロマナイ川の 3km 手前の橋でバスを降りてしまい、民家裏から入山するハプニングを経て、アフトロマナイ林道から再入山。除雪は無い。

雪はよく締まっておりワカンの出番がないまま予定より早く予定 C1 に着きテンバを進めることにする。ガスの中、雪庇に注意しながら Co1300 まで行きブロック積んで C1。

3/25 ガスガス (06:50) C1 発(09:00)窓(10:30)懸垂終了(12:00)N 峰(13:30)東稜分岐(15:30)鬼脇山

5 時発で起き、風が弱まるのを待って出発。-12°C+風で結構寒い。相変わらず視界は無いが雪は安定しており稜線の判断は可能だ。門手前のナイフリッジからアンザイレン。2p で門の上まで。すぐにローソク岩に着き、懸垂支点の掘り出し作業に精を出す。が、ガチガチに雪が締まっておりハイマツの掘り出しに苦勞。顔面ビバでまつげも凍り付きようやく懸垂開始、約 40m。あとは雪壁を登り、N 峰まで。板橋さんは利尻初登頂だがガスに覆われ何も見えない。本峰から懸垂 20m でコルに降り、前半戦の核心である東稜への下降に入る。南峰基部を 20m 程進み、表面が氷の堅く締まった急な雪壁をクライムダウン。慎重にルートファインディングしながら東稜の稜線に出る。途中、堅い斜面の上に 20cm 程の吹きだまりがありロープ出す。踏み込むと板状に崩れ雪崩落ちて行った。鬼脇山までの間も斜面の状態が判断し難い箇所があり 4 回程スタカットでロープ出した。鬼脇山手前には 8m はあろうか巨大な雪庇が出ていた。Co1400 から先の稜線が不明瞭で判別し難く、スタカットで一回確保して進んだ。Co1000 からようやくガスの下に抜け出て、ヤムナイ沢 Co520 まで降りて C2。のっこし成功を祝う。焼豚とウイスキーで乾杯。

3/26 快晴 (07:30) C2 発(10:00)1200P(14:30)Co1470=C3

無風快晴。ようやく利尻が姿を見せた。1200P から先で懸垂2回。Co1350 辺りで1回ロープ出す。Co1470 の大槍とローソク岩に囲まれた抜群のロケーションで C3。ブロックを積む。





C3 の日没

3/27 強風、ガス C3=C4

南よりの風が強く、視界もゼロで停滞。利尻がゴーゴー唸っている。5℃くらいまで気温が上がり湿度100%で結露がすごい。高橋のシュラフカバー(SIMITEX)は触れた水滴を瞬時に浸透する。板橋さんの靴下が「イースト菌」の酵母である疑義があがったがその真偽は定かではない。



W.C.制作に励む。文化的生活を喜ぶ。

3/28 快晴 (05:40) C4 発(8:30)P2 下降点(12:00)バットレス取り付け(19:00)本峰(20:00)長官小屋=C5  
 快晴。最高の一日な予感。大槍からスタカット、P2 までツルベで行く。気温は0℃程度だが風が冷たく、ほぼビレイジャケットのまま行動した。



1p: 大槍基部をヤムナイ沢側にトラバースして雪壁を上がり、ナイフリッジを通過してビレイ。60m、(板  
 2p: P2 基部手前まで。60m。(高  
 3p: P2頭まで。50m(板



3p 目のフォロー時、足下にシュルンドが空き、下半身がズボッと落ちる。穴の先は岩と雪の間のシュルンドにつながっていた。  
 P2 頭から懸垂2p。アッチだコッチだと言い合いながら2p 目の懸垂支点の岩角を掘り出し、コルに降りる。再びスタカットで進む。P1 まではコルから見た印象より易しく、途中コンテにしても良かった。景色が良すぎて二人で写真を撮りまくり、時間押し気味でバットレスに着く。

バットレス1p: 右ルートをとる。快晴で腐り気味のシユカブラをたたき壊しながらじりじり進む板橋さん。除雪の体勢が悪く苦戦しているらしい。「アアッ」「ウェェ・・・」「ウオーっ」とかいろいろ奇声が聞こえる。どうやら核心を越えたらしくビレイの合図が来てフォローで登ると思いの外悪いピッチであった。ビレイ点は Bush とイボ。



2、3p: 左にトラバってから直上し、ハイマツテラスに出てピッチを切る。左手に易しそうな小ルンゼが見えるが3p 目もそのまま直上して行く。(高  
 4p: S 字ルンゼに出る。(板 5p: 稜上まで。(高

←3p 目あたり



日が沈み、満天の星空の下北峰へ。足下を港の灯火がぐるりと囲み、自分が星にでもなってしまったかの様だ。夢の中にいる様な気分で長官小屋まで。

←再び、北峰



3/29 晴れ (05:30) C5 発(7:00)北麓キャンプ場

朝日を後に、下山。

#### 【感想(板橋)】

利尻継続の目標に向けて、凍てつくカミホロ、雷電ドーム壁、バニ&パラグー他、定天Ⅱ峰をこなしました。登攀技術・長期の生活技術の訓練はもちろんですが、真摯に取り組むパートナーの姿勢に刺激された事、なによりベクトルが合致し共に取り組めた事が私の力となった気がします。

南稜では運良く天気恵まれ、サイコーなクライミングができましたが、東北稜と東稜では視界の悪い中での行動となりました。

リスクを一つ一つ乗り越える作業には当然時間と体力を消費しましたが、二人の力で乗り越えてゆくその行為は、利尻を全身で感じているような感覚で、とても充実したものでした。

重荷に喘ぎ、ボロい壁に唸り、星空の広がる山頂に着いた時には、アルパインクライミングをされていて本当に良かったと心から思いました。  
パートナーと家族に感謝です。

#### 【感想(高橋)】

苫小牧にある私の職場への通勤途中には、白い恋人の大看板があります。看板に写る利尻南稜の美しい稜線を毎日仕事帰りに眺め、自分はいそこに行くんだと想像し、恋い焦がれるのはとても楽しいものでした。今回まとまった休みを取得するため毎日帰宅は21時過ぎ、それから走ったりトレーニングしたり、山行の準備と忙しい毎日でしたが日々充実していました。職場の昼休みには駐輪場でこっそりアックス懸垂を繰り返し、夜な夜なアックスを握って公園に繰り出したり、仕事中にニヤニヤしたりとこの数ヶ月間利尻は私にモチベーションを与え続けてくれました。いろいろとプレを行いました中でも全装での雷電1ルンゼからのドーム壁登攀が良かったです。また、食事担当を板橋さんが引き受けてくれたおかげで毎日美味しいごはんでした。乾燥肉をミイラ肉と言ったり靴下をイースト菌と言ったりしてすみませんでした。パートナーと、職場に感謝しています。またリセットして次の目標に向かいたいと思います。